

「すこやかお出かけ利用券の
商品券としての利活用について」を質問!!



イラスト：斉藤暁雄

問い

令和4年度決算状況によると、給付対象数が6,669名のうち、配布者数が5,355名、利用率73.69%、確かに成果を出している。
しかしながら、活用せずに終わってしまった方が26.31%いるということになる。この方を対象にニーズ調査はしたことがあるか。

答え

すこやかお出かけ利用券のニーズ調査については、実施はしていない。
本利用券は、H12年度に温泉施設利用券として開始し、21年度に町内循環バスの利用、27年度に風越公園運動施設の利用、29年度に運転免許証自主返納支援対策としてタクシー利用、R4年度にしなの鉄道の利用と、利用者の声を聞きながら外出支援や健康増進を目的として利用範囲の拡大を図ってきた。

問い

外出支援は多様な使い方でも促進できると考えることから、商品券として活用するのはどうか。
例：「発地市庭で買物ができる商品券」としての活用や必要な「ごみ袋購入」に使えるようにできないか。
車を運転できて温泉に行かない方に外出支援として使えるようにする事も必要ではないか。

答え

すこやかお出かけ利用券の支給目的は、利用券を支給することにより高齢者の外出の機会を促し、生きがいづくりの推進及び健康増進を図り、高齢者の福祉向上を図ることとしている。
利用券は、商品券等の経済対策目的の支給とは異なるので、商品券としての利用やごみ袋購入への拡大については現在のところ考えていない。



©KOMEITO



©KOMEITO

さゆり通信

発行：川島さゆり 軽井沢町大字長倉 4280-5 TEL 46-2135



去年は、皆様には大変にお世話になりました。

2024年、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

年明けに起こりました石川県能登地方を震央とする地震において、お亡くなりになられた方に衷心よりご冥福をお祈り致します。

又負傷をされた方、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げますと共に、一刻も早い復興復興をお祈り申し上げます。

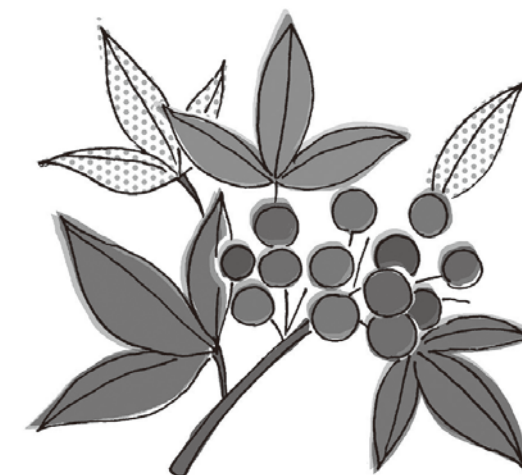
公明党は、中川衆議院議員がすぐに現地に入り、具体的に復興復興に向け何が必要なのか現地の地方議員と共に進めております。又、公明党東信総支部では、被災者救援の街頭募金をさせて頂き、日本赤十字社長野県支部へお届け致しましたので、ご報告申し上げます。

新型コロナウイルスが5類になったとはいえ、まだまだ大変な状況でありますことから、軽井沢支町議会公明党議員団として、物価高騰から町

民の生活を守り、経済の着実な回復を図るため、

11月30日に土屋町長に要望活動を致しました。

12月会議最終日に非課税世帯、家計急変世帯等に対する給付が補正予算として提出され、全会一致で可決となりましたので、ご報告申し上げます。



©KOMEITO



川島さゆり HP

2023年12月会議 一般質問から

「中部小学校通り新幹線側道における事故防止対策について」を質問!!

問い

9月21日、警察に提出された中部小通り新幹線側道交差点の信号機設置要望署名1550名の重さを町はどう受けとめたか。

答え

以前から事故が多発するこの交差点に注意喚起の路面舗装や標識、電光掲示板を設置等していたが、信号機設置について改めて庁内での検討や、関係機関と協議を進めている。
現状では、信号機設置条件に不適合なので設置条件をクリアし、少しでも早く信号機を設置できるよう、12月補正予算を提出。(全会一致で可決)
今後の計画は、R8年度末を目途に信号機を設置できるよう、5年度交差点改良のための予備設計を発注、6年度に詳細設計、7年度に用地買収等、8年度に交差点改良の工事を進める予定。



問い

国県が補助になれば町は真っ先に手を上げるか。

答え

国県の補助の際は、積極的に検討して参りたいと考えている。

「協働でのまちづくりについて」を質問!!

問い

町長が目指す協働について詳細に伺いたい。

答え

風土フォーラムについては一旦区切りをつけ、これからはより一層自由度の高い住民が主体となったまちづくりを推進していきたい。風土フォーラムに代わる新しい組織として中間支援組織が立ち上がることを想定している。
組織の立てつけは、風土フォーラムが町長の附属機関であるのに対し、中間支援組織はより一層自由度の高い活動ができるよう、任意団体を含めた外郭団体を想定しており、みなまちサポートによる助成事業を担うほか、社会の変化やニーズを把握し、地域における様々な団体の活動や団体間の連携を支援するとともに、団体と町を有機的につなぐハブ的な役割を担うものとなる。
町と各種団体等との協働によるまちづくりを行っていきけるような組織体制を考えている。

「带状疱疹ワクチン接種の助成について」を質問!!



問い

働き盛りの世代、20～50代の带状疱疹に罹患した場合の労働力へのリスクをどのように捉えているか。

答え

症状によっては仕事へ出勤することもままならず、罹患者にとっては身体的、精神的に辛く、場合によっては休業や失業といった状況となり、本人、企業双方にとって損失が大きい事は認識をしている。

問い

県から各自治体へ助成調査が実施された。国・県の動向を踏まえ、町としての助成の考えは。千葉県いすみ市のような助成はできないか。

千葉県いすみ市の助成制度

- ・50歳以上
- ・18歳以上50歳未満で、病気または治療により免疫不全、免疫機能低下等医師が接種を必要と認めた場合
- ・費用の1/2、接種1回につき1万円を上限に1人2回まで(生活保護世帯は全額助成)



答え

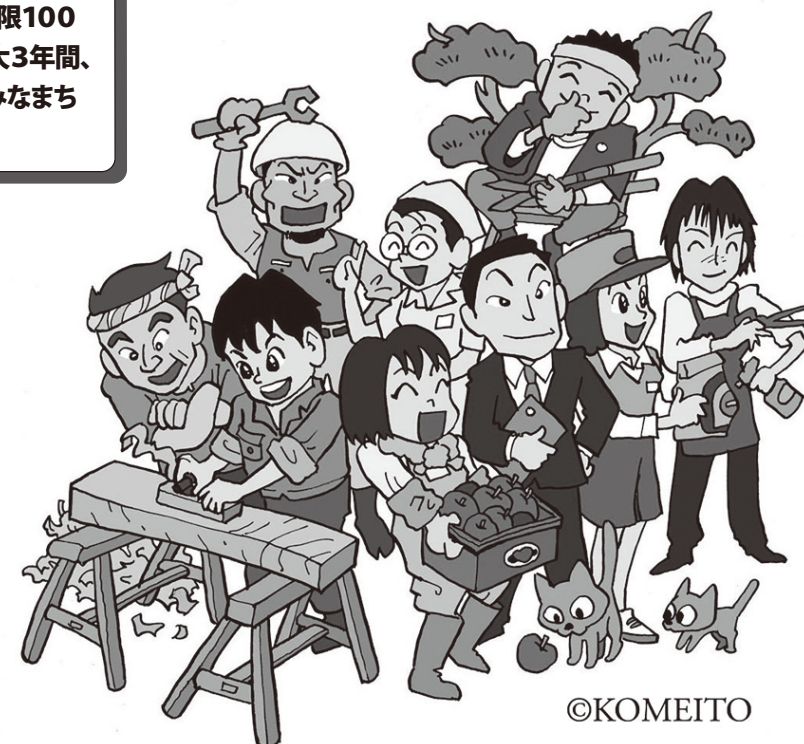
国や県の動向や近隣市町村の状況を注視しつつ検討して参りたい。

問い

立ち上げた組合を支援する制度がないので、例えば広島市のようにプラットフォームをつくり、1/2の補助上限100万円。京丹後市は補助率1/2、最大30万円で最大3年間、組合が行う事業の経費について補助金を交付。みなまちサポート等、立ち上げた組合に支援をする制度は。

答え

補助金交付対象であり活動内容が要件を満たせば申請可能。広島や京丹後で補助金を出しているということだが、補助金については今後の課題、検討事項としていく。



©KOMEITO